

大潮



千葉県助産師会

第40号 令和5年3月

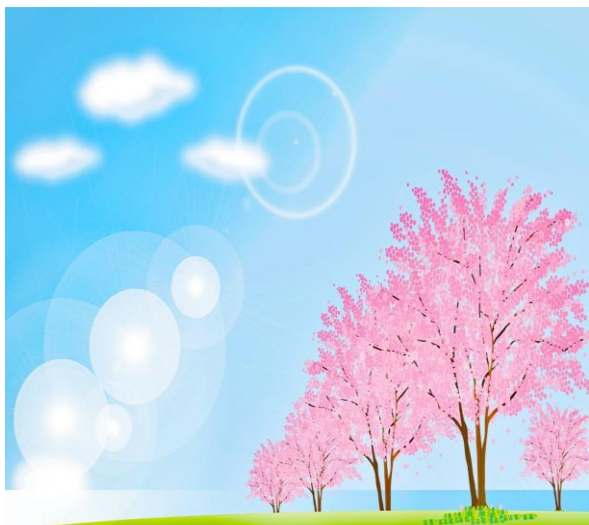
1. 会長挨拶

(一社)千葉県助産師会 会長 武田 智子 4地区 八千代マタニティーセンター武田助産院

皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年来から続いているウクライナとロシアとの戦争、異常気象などの環境や社会の変化を感じながら4月総会に向けて最終段階にきています。3年前から続いている新型コロナウイルス感染症は、With コロナとして定着し、日常生活も動き出しています。

行政の委託事業の依頼も通常に戻りつつありますが、新型コロナウイルス感染症以前まで回復するには時間がかかりそうです。

新年度から「子ども家庭庁」が発足し、様々な府省庁に分かれていたものを一元化し、縦割り行政を解消するために内閣総理大臣の直轄組織として、内閣府の外局におかれます。委託事業の「産前産後ケア」等が含まれますが、どのように条例等が変更したのかを広報「大潮」に掲載するようにいたします。各自治体の対応は、新設庁が発足したとはいえすぐに社会変化があるとは考えられませんが、皆様と一緒に波を起こしていきましょう。ご意見をお待ちしております。



CONTENTS	
1. 会長あいさつ	1
2. 通常総会のお知らせ	2
3. 保健指導部会交流会報告	3
4. 勤務助産師部会	4
5. 安全対策委員会	4
6. 子育て委員会	5
7. 子育て委員会 交流会・研修報告	6
8. 研修会のお知らせ	7
9. 会計からのお知らせ	7
10. 編集後記	8

2. 令和5年度千葉県助産師会通常総会のおしらせ

日 程:令和5年4月29日(土)10:00~13:00

開催形式:オンライン開催

9:30 受付

10:00 会長挨拶・来賓挨拶・表彰

10:30 総会

【審議事項】

第1号議案 令和4年度 活動報告

第2号議案 令和4年度 収支決算報告および監査報告

第3号議案 令和5年度 事業計画(案)

第4号議案 令和5年度 収支予算(案)

第5号議案 定款改正

12:10 専門部会集会

13:00 令和5年度 第2回理事会

<ご注意>

1. 開催形式

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン(Zoom ミーティング)にて開催します。
- ・総会に出席される方は、同封の総会案内に記載したURLまたはQRコードにてZoomの事前登録をお願いします。登録後、Zoom ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。
(総会への出・欠席のお返事は、例年通り、同封の葉書にてお願いします。)

2. 専門部会集会

- ・Zoomのブレイクアウトセッションにて専門部会集会を開催予定です。
- ・Zoomの事前登録の際に、所属部会を選択してください。

3. 地区報告会

- ・昨年同様、地区報告会は紙面報告とします。
- ・7月の大潮に抄録(1・2・3・4地区)を同封予定です。

4. 総会資料

- ・活動報告と事業計画(案)は今回の大潮に同封しますので、総会までにお目通し願います。
- ・収支決算報告、監査報告および収支予算(案)については、総会前に会員メーリングリストにて配信し、7月の大潮に同封予定です。

5. その他

- ・総会に関するお知らせは、千葉県助産師会の会員メーリングリストで配信予定です。総会に出席予定の方は、必ず会員メーリングリストに登録してください。新たに登録を希望する方、メールアドレスを変更する方はinfo@midwife-chiba.orgまでご連絡ください。
- ・Zoomの事前テスト日は設けませんので、Zoom参加に不安のある方は、総会当日に早めに参加するようにお願いいたします。

※詳細は、同封の総会案内をご覧ください。皆様のご出席をお待ちしております。

3. 保健指導部会交流会報告

保健指導部会長 来田美鈴 2地区 すず助産院

令和4年度の保健指導部会交流会は、12月3日に「幼児期にみる発達障がいと支援の目安」をテーマとし、国際医療福祉大学成田病院の児童精神科医の早津龍之介先生にお話を伺いました。

日々の育児相談の中で、子どもの発達に関する相談を受けることや、発達が気になる子どもに出会う事は、多くの方が経験されるでしょう。

代表的な3つの発達障害①注意欠陥多動性障害(ADHD)②学習障害(LD)③自閉スペクトラム症は、時に重なりあって見られたり、知的障害を合併することもあり、相談対応はなかなか難しいのが現状です。

今回は、乳幼児期でのそれぞれの具体的な問診事項や、発達障害を持つ社会的に活躍した著名人(アインシュタイン・トムクルーズなど)の話など、育児相談の現場で活用できる情報が満載の内容でした。

とくに学習障害は、学校での学習が始まってからでない症状がわからないため、他と比べ、発覚するのも遅く、しばしば見逃される事も多く、その結果、不適切な対応で学校教育に馴染めず、不登校のひとつの原因となることもあります。2021年度の小中学生の不登校は24万人。私たちは、子どもの育ちを支援してしていく中で、このような特性を持つ子どものことを正しく理解する必要があると思いました。

そして、発達障害診断において一番大事なことは、「本人・家族が社会で生きる上で困っているかどうか」ということ。発達障害という名前や疾患にとらわれすぎず、本人の特性として理解し、それを肯定する事が重要だという、早津先生のお話が、今回のテーマの核となる部分だったと思います。

子どもの特性を理解しないままの不適切な子育ては、子どもにとってはトラウマ体験となり、自尊心の低下や孤立感、社会への不適応、抑うつ状態、解離といった二次障害のリスクを伴います。

また、子どもを養育している親自身が発達障害であったり、子育てに孤立し、育てにくさに苦しんでいることも少なくありません。私たち助産師は、改めて親(特に母親)に寄り添う支援が求められているのだと再認識しました。

今回の交流会は、他の研修会と重複を避けるために、「土曜日の夕方のオンライン開催」「後日配信あり」という初めての設定で開催しました。

結果46名の参加(当日参加23名+後日配信32名)があり、アンケートに回答を頂いた方の全ての方が「後日配信はあった方が良い」と答え、開催時間についても「概ね参加しやすい」との回答でした。また、今回は、助産師同士の交流時間をあまり持つ事ができなかったことが反省点としてあげられ、このような点を踏まえ、次年度はより助産師同士の繋がりが深められるような交流会を開催したいと思います。





私たちは、働く皆さまを
「快適な眠り」で支えます。

東洋羽毛について
詳しくはこちらをご覧ください



東洋羽毛北関東販売株式会社 千葉営業所
〒285-0815 千葉県佐倉市城354-8 0120-006-745

4. 勤務助産師部会

勤務助産師部会委員 4 地区大久保洋子・5 地区小野寺由美子・3 地区岸本優子・1 地区山中真弓

勤務助産師部会では、11月19日(土)「対象理解のためのアートワークを用いたコミュニケーション」の研修会を公認心理士(米国アートセラピー協会登録アートセラピスト)の倉石聡子先生をお招きし、開催しました。クリエイティブ・アーツセラピーは、諸芸術を治療や支援に意図的に用いる諸芸術療法の総称で、本来人間が持てる創造性を生かすことで自己治癒力を高め、より豊かに、より健やかに生きることを目指す技法です。

表現による非言語的なケアと言語中心のケアとの違いは、対話中心の「二者関係」の構図から、非言語を導入することで「三者関係」を作り出し、言葉で「自分」や「気持ち」を語るのが難しい対象者が、自己の意識を投影でき、カタルシスの生起、自己洞察の深まりを導くことに繋がるということが印象的でした。アートを媒介にしたコミュニケーションにより、対象者が自己との対話に向かい、真のニーズである痛みや身体の変化に目を向け、セルフケアに繋げていく過程が理解でき、アートに限らず非言語的コミュニケーションを工夫し、ケアにつながるきっかけを導入し対象者の心理面を捉えたケアを提供していけたら良いと思いました。

演習では、自分の身近な関心の対象を探し、なぜそれを選んだのか、その選択にはどのような気持ちがあったのかを語り合い、その対象に何をしたいかを絵や色を活用して自由に表現し合いました。関心の対象は今の自分であり、自分自身の感情を感知することが、他者の感情を理解できる器を作るのだとわかりました。今の自分を参加者が作り出す安全基地の中で表現し合い、カタルシスに繋がった時間であったと思います。

参加者の方からは、時間の共有が心地よく感じられたようでしたが、ケアに繋げるための方法をもう少し具体的に知れたら良かったとの意見が聞かれました。内容をもう少し詰めることが必要であったと思われます。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

5. 安全対策委員会

安全対策委員 山中 真弓 1地区 県立野田看護専門学校

安全対策委員会では、会員が日本助産師会の「インシデント・アクシデント報告」について理解するために「インシデント・アクシデント報告を書く」をテーマに2部構成で研修会を開催しました。研修前半は医療現場で「インシデント・アクシデント報告」をどのように扱っているのかを倉敷中央病院・患者安全リスク対策グループ塩津昭子氏よりご講義いただきました。「インシデントレポート」はヒューマンエラーを科学的に検証し、事象に潜む問題を改善することで再発防止のための資源となること、「報告」とは情報提供であり、実務者は報告の義務があること、「インシデント・アクシデント報告」は組織全体で共有し合うことに意義があり、その過程を再発防止に役立てることが重要であること、「報告」は組織全体に学習の機会を提供する「グッドジョブ報告」であり、組織で報告し合える文化を育むことが重要であるなど多くの学びがありました。

後半は、安全対策委員長清水清美より2021年から開始している日本助産師会の「インシデント・アクシデント報告」についての解説および報告の手順を周知させていただきました。インシデント・アクシデント発生時の報告フローをご参照ください。

参加者のアンケートからは、「インシデント・アクシデント報告の意義」について参加者全員が理解でき、「報告の手順」についても概ね理解が得られたようです。また、「今後の業務に役立てられる」「安全なお産を続ける為に今後も研修に参加したい」「知識だけでは防ぎきれないため注意喚起のためにも研修会が必要である」などの意見が聞かれました。

助産師は施設の規模や形態にかかわらず、個人と組織の両面から医療事故を未然に回避することが重要です。今後も組織全体で安全なケアを提供できるよう安全対策研修会を実施したいと思います。皆様、ぜひご参加ください。

6. 子育て委員会

子育て委員会委員長 杉山亜希 5 地区 成田市こんにちは赤ちゃん事業

今年度はコロナ禍となり3年が経ちましたが、オミクロン株の出現もあり依然として感染の勢いは衰えることがなく、未だに制限の多い生活様式が続いた一年でした。With コロナ時代となり、医療機関の母親学級、外来の同伴、産後の面会等の制限や自治体が運営する交流会の場も利用に制約がある状態が続いています。妊産婦を取りまく環境は大きく変化し、以前にも増して孤立しストレスや不安を抱えやすい状況にあります。また、周囲への相談機会も限られ、直接話せる相手がいない、十分なサポートが受けられない中で、メンタルヘルス不調の問題が深刻化しています。

今年1年間の電話相談は1083件ありました。毎月約90件前後の相談利用をいただきました。相談者はここで気がかりを解決したいという思いから、質問を重ねてされる方、同日に再度電話をかけてこられたり、連日利用される方もありました。そのような背景もあり、1件の相談の対応に時間を要するケースが散見されました。

相談内容は、授乳・離乳の相談が40%と最も多く、次に育児不安19%、子どもの発達と健康18%、そして妊産褥婦の心身が10%となっています。気軽に対面で話せない環境の中で、情報収集はインターネットやSNSが主流となり、比較をして悩み不安を募らせるケースが往々にしてありました。また、リピーターとして繰り返し利用される相談者も一定数あります。その中にはメンタルに問題を抱えている方もおり、相談をしたいというよりは、話を聴いて欲しいという様子が伺えました。それらのケースの多くは、他の相談窓口も複数利用されていたり、社会資源と繋がっている等の情報がありました。相談を受けられた協力員の皆さんは、気持ちに寄り添いながら丁寧に傾聴されているものの、一方的な話を受けるだけのモヤモヤ感や戸惑いを感じながら対応されている様子が伺えました。また、このような対応を受けている間に、相談をしたくて電話をかけてくる方の電話に出られない葛藤も見受けられました。電話相談は個人で対応するため、このような気持ちを共有しあう機会も限られています。

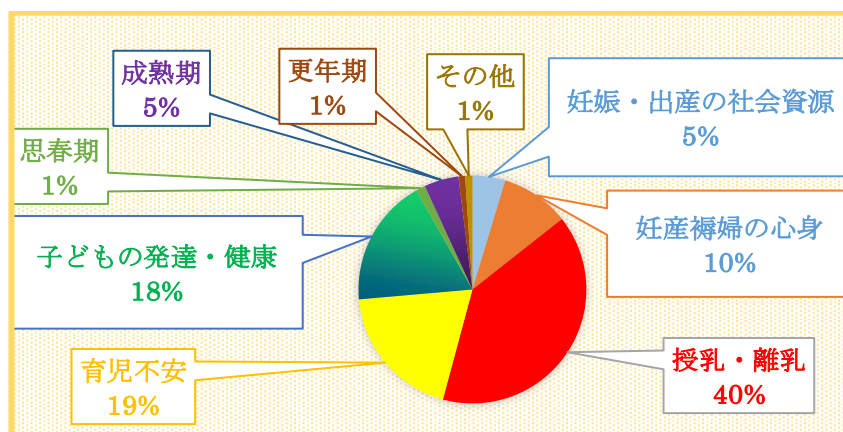
そのため、協力員の皆様が疲弊せずに電話相談を継続していくために、交流会と研修会を開催しました。(交流会と研修会の報告は別紙参照)

委員長として、一年を通しカルテを拝見してきて、協力員の皆様それぞれの対応スキルの高さに感服しました。今年度はアクシデントにも見舞われましたが、担当した相談者の方から「以前も利用して、とても親切に対応してもらい安心出来た。」とのお声をいただくこともあり、この電話相談事業の意義を実感しました。改めまして、協力員の皆様には感謝申し上げます。

これから協力員にご興味のある方、ご一緒に活動しませんか？是非お待ちしております。コロナ禍でも相談者の方が前向きに柔軟に対応していけるために、これからもよろしくお願ひします。

月別相談件数	
1月	95件
2月	91件
3月	107件
4月	100件
5月	77件
6月	80件
7月	93件
8月	89件
9月	97件
10月	83件
11月	89件
12月	82件
合計	1083件

【電話相談内容】



7. 子育て委員会 交流会・研修会報告

子育て委員長 杉山亜希 5地区 成田市こんにちは赤ちゃん事業

子育て委員会では、オンラインで7月3日に交流会と11月27日に研修会を開催しましたので報告致します。

交流会 テーマ: 『電話相談リピーターの方の情報共有とグループワークでの交流』

(参加者:子育て委員を含む協力員 30名)

今年度初めての交流会ということで、日頃個人で対応をされている協力員の皆さんの気持ちを表出し、共有の場となるように、60分と限られた時間でしたが、前半はリピーター2名の情報共有、後半は各地区を組み合わせてグループ分けを行い、リピーター事例を含む電話相談に関する悩み・対応に困ったケースなどについて、グループワークを行いました。各グループとも活発に意見交換をされており、それぞれの苦労や大変さを共有しながら、個々のスキルや経験から具体的な対応についても話し合われました。交流会後のアンケートでも、「参加者とのグループワークでの体験談や相談者に対する心の向け方がとても共感できた。」「情報共有の時間があると今後の相談の参考になる。」「他の協力員の方も対応に悩みながら電話相談を受けていることを知れただけで励みになった。」等々、参加された皆さんからは前向きな感想を多くいただくことができました。グループワークは、協力員同士の顔が見えて、意見交流が充実できることを改めて実感できた会となりました。



研修会 テーマ: 『電話相談におけるメンタルヘルスケア』 ～非対面式で行う相談～

講師:成田赤十字病院 臨床心理係/公認心理師 橋 稚佳子先先生 (参加者:子育て委員を含む39名)

長期化するコロナ禍がメンタル不調を助長している中、電話相談でもメンタル不調を抱える特徴的なリピーターの方の対応に苦慮されている現状があり、改めて電話相談の特性を基に、メンタルヘルスケアの学びを深める機会にしたいと考え研修会を行いました。講師として、臨床心理士・公認心理師であり、成田赤十字病院臨床心理係長として、小児を中心に、胎児期から成人その家族を含めて幅広く支援をされている、心の専門家の橋稚佳子先生をお招きしました。

橋先生からは、電話相談の利点や難しさ・特性がもたらすジレンマについて、相談者の心理状態に合わせた実際の聴き方や対応の目安、相談員自身の受け止め方やセルフマネジメント方法とコロナ禍の妊産婦や乳幼児の発達への影響について具体的にお話をいただきました。また、事前アンケートで参加者の皆さんからいただいていた質問についても的確にお答えいただきました。『時間も情報も限られる中で、相談全てに答えようと焦らず、相談者の気持ちに寄り添い、安心の提供を。』『相談者が求めている、必要としている支援に《つなぐ》役割が大切。』『聞き手側にも大きな負担がかかるため、ケースカンファレンスや情報共有は重要。自分達の安心につながる。できるだけ機会を得られるように、方法についても考える必要がある。』とメッセージをいただき、個々の協力員の皆さんへの励ましとこの電話相談事業を続けていくための運営委員としての課題も見えました。参加者の皆さんからは、「電話対応の心構えについて、ようやくヒントがもたらされた。」「具体的で知りたい内容と合っていたのでとても分かりやすい。」「相談対応にすぐに役立つ、新たに気付かされたことがあった。」「基本的に立ち返ることができた。」「知識やコツを改めて学べた回の担当の気持ちりが軽くなった。」等々多くの感想をいただきました。当日参加者していただいた皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。

橋稚佳子先生



～研修会のお知らせ～

1. 研修会について

※詳細は千葉県助産師会ホームページ("http://www.midwife-chiba.org")にてご確認下さい。

開催日	時間	研修会名・講師	場所	担当
5月23日(火)	9:30～12:30 13:30～16:30	午前「妊娠中から身体を整えるための骨盤ケア」 米丸充咲氏 午後「事例を通して学ぶ妊娠中からのおっぱいケア」 小柴和子氏 *16名様まで(先着順) Mail:josan@midwife-chiba.org	千葉市生涯学習センター一和室	助産所部会
7月2日(日)	10:00～12:00	「助産師が行う」を極める part2～コアと表現を極める～」	オンライン	生と性の健康教育委員会
6月か7月頃	未定	保健指導部会交流会	未定	保健指導部会
7月2日(日)	14:00～16:00 (予定)	「産科救急の実践」 ・ファミリー産院きみつ 永田久夫先生 ・船橋中央病院 淀川祐紀先生	オンライン	安全対策委員会

～会計からのお知らせ～

1. すくすく赤ちゃん献金について

今年度も2月までに献金をお願いしました。

皆様のご厚意によりお送り頂いた献金は、2月末に日本助産師会へ送金しました。

ご協力ありがとうございました。

2. 退会・異動のご連絡について

退会・都道府県移動のご連絡が4月1日以降になりますと、口座振替や振込で納入された令和5年度会費の返金はできません。

3. 令和4年度末(3月31日)までに退会・他県への移動の手続きをされていない場合、会費を納入をされていない方も在籍扱いになりますので、会費の納入をお願いすることになります。

4. 日本助産師会・千葉県助産師会の年会費の領収書は、会員マイページからダウンロード・保存・印刷をお願いいたします。





お知らせ



1. 理事会の日程 4月～7月

	開催日	時間	場所
第1回	4月16日(日)	9:30～12:30	オンライン
第2回	4月29日(祝)	13:00～13:30	オンライン
第3回	6月18日(日)	9:30～12:30	オンライン

2. INFORMATION

・氏名や住所の変更があった場合は速やかに変更手続きをお願いいたします。

3. メーリングリストについて

1) 会員メーリングリスト

・メーリングリストに登録すると助産師会と関連のある団体の研修会案内等も届きます。

2) 部会メーリングリスト

2023年度より、所属部会からの連絡を行うために、部会のメーリングリストを開始します。

会員メーリングリストに登録している皆様には、所属部会からもメールが届くようになりますが、部会メーリングリストの配信を希望されない場合には、2023年3月31日までに、info@midwife-chiba.org までご連絡ください。

・ご自分の所属部会の確認や変更は、日本助産師会の会員マイページでお願いします。

・この機会に、まだメーリングリストに登録されていない方は、ぜひメーリングリストにご登録ください。会員メーリングリスト、部会メーリングリストともに、メーリングリストの登録やアドレスの変更は、info@midwife-chiba.org までご連絡ください。

編集後記

大潮40号発刊に向けて1月から始動し3月中旬で完了いたしました。

この3ヶ月の間には、千葉や都心近辺では、ボケの花、紅梅が芽吹いていました。かたや日本海側では爆弾低気圧で猛吹雪の様子が写し出されました。このような厳寒の中にあつて、地域の助産師活動はどのように工夫され乗り越えていらっしゃるのかを思うと、頭が下がります。インドのネール初代首相は「歴史を読むのは楽しみだ。それよりももっとここを引き、興味あるのは歴史を創ることに参加することだ」とありました。次元の違いがあるかもしれませんが、私達助産師の日々活動は助産師の足跡の一步に値すると考えると感慨深いものがあります。自分のできる助産師活動に誠意をもって、取り組んで参りたいと思います。

さあ、3月の柔らかい暖かさの風に乗れ、大潮40号が、皆様のお手元に届きます。楽しく読んでいただけると嬉しいです。年度末のお忙しい中、執筆やご協力くださった方々に厚くお礼申し上げます。

広報委員：山本裕子・佐藤静子・齋藤明子・佐藤幸江

